

CASBEE-建築(新築)2014年版
神足小学校・保育所等複合化施設建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.1.22)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質							2.8
Q1 室内環境							2.9
1 音環境		2.7	0.15			2.7	
1.1 騒音		3.0	0.40				
1.2 遮音		3.3	0.40				
1 開口部遮音性能		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		4.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽衝撃源)		3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重衝撃源)		3.0	0.20				
1.3 吸音		1.0	0.20				
2 温熱環境		2.6	0.35			2.6	
2.1 室温制御		3.0	0.50				
1 室温		3.0	0.60				
2 外皮性能		3.0	0.40				
3 ゾーン別制御性							
2.2 湿度制御		1.0	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30				
3 光・視環境		3.3	0.25			3.3	
3.1 屋光利用		3.6	0.30				
1 屋光率		4.0	0.60				
2 方位別開口							
3 屋光利用設備		3.0	0.40				
3.2 グレア対策		3.0	0.30				
1 屋光制御		3.0	1.00				
3.3 照度		4.0	0.15				
3.4 照明制御		3.0	0.25				
4 空気質環境		3.0	0.25			3.0	
4.1 発生源対策		3.0	0.50				
1 化学汚染物質		3.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.30				
1 換気量		3.0	0.33				
2 自然換気性能		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33				
4.3 運用管理		3.0	0.20				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50				
2 喫煙の制御		3.0	0.50				
Q2 サービス性能							3.1
1 機能性		3.0	0.40			3.0	
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40				
1 広さ・収納性							
2 高度情報通信設備対応							
3 バリアフリー計画		3.0	1.00				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30				
1 広さ感・景観		3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース							
3 内装計画		3.0	0.50				
1.3 維持管理		3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30			2.8	
2.1 耐震・免震		3.0	0.50				
1 耐震性		3.0	0.80				
2 免震・制振性能		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20				

2.4 信頼性			2.4	0.20		-	
1	空調・換気設備		1.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、分岐バルブにより不使用範囲の最小化、直結水	4.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高は3.95m確保	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1782	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域の環境へ馴染むよう配慮している。	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.3
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		BEIm ≤ 0.9を確保している。	4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.85 住宅(専有部) -	4.0	0.50		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		BEIm ≤ 0.9を確保している。	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング							
4.2 運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60		-	3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		既存校舎棟のリフレッシュを行い再使用	5.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生砕石	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		乾式工法などを採用し、分別しやすした。	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.8
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物と同等	3.2	0.33		-	3.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.33		-	
2 振動			3.0	0.33		-	
3 悪臭			3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			2.8	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.60		-	
2 砂塵の抑制			2.0	0.20		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.20		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 屋光の建物外側による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	